

## 第105回「さんか・さろん」まとめ

・2021年4月20日(火)

・～キッチンカーの今

コロナ禍から見えてきたこと～

・舟越隆裕さん

(Mobile Cafe NIKKO 珈琲 COCOM オーナー)

コロナ禍をきっかけに、オンライン「さろん」が根付いてきました。今回は「スローライフ・フォーラム in 日光」(2012年2月開催)でお世話になった、舟越さんの登場です。日光市役所、日光市観光協会を経て、新しい出発を遂げたそのお話は、以前「スローライフ瓦版」にも連載いただきましたが、今回、コロナ禍での発見も含めあらためてうかがいました。まずは舟越さんのスピーチです。

### <日光市は市民みんなでおもてなし>

日光は、世界基準の観光資源があり、首都圏から交通アクセスが便利で宿泊施設が多種多様にあり、四季折々楽しめる観光地。観光業者だけでなく、市民一人一人が国内外からのお客様をおもてなししているのが自慢だ。まちの高齢者も、英語ができなくてもコミュニケーションがとれる。

そんな日光だが、観光入込客数がピーク時2018年で1200万人だったのが、コロナで2020年には830万人と減少した。外国人宿泊者数も2019年には12万人、2020年2



※写真は市職員時代の舟越さん。



万人と減少している。

自分は日光市役所に1984年から2011年までいた。この間、市町村合併前の旧日光市で3年、合併後の新日光市で3年、観光課にいた。その後、市役所を早期退職して観光協会に入り、ここでまた8年間観光の仕事をした。協会に入ったときは東日本大震災の時に、観光客を0から増やすことをやった。観光協会の合併などにも携わった。

### <行った先を交流の場にしたい>

市役所に入ってから、市民、お客様に近い現場でなるべく仕事をしたいと思っていた。今の社会の仕組みでは65歳まで仕事を続けられるが、退職をしてからだとして新しいことをスタートするのは難しいと考え、定年1年前に退職し新たなライフワークをスタートした。もともとコーヒーが好きだったし、昔からある程度の年齢になったらカフェをやりたいと思っていた。

カフェの発祥は、500年前のイスタンブールだそうだ。この頃のカフェは飲食はもちろんだが、人の交流の場だった。どうせやるなら楽しくやりがいがあり、地域とのかかわりがある交流の場としてのカフェをと考えた。そして、固定店舗では決まった場所のお客様を待つしかないが、キッチン

カーなら色々なところへ行き行った先で人との交流を図れると。

そもそも移動販売は籠を背負った行商とか、チャルメラ、ロバのパン屋さんなどがルーツだと思う。それが高度成長時代のモータリゼーションが進み、キッチンカーなどになった。都市周辺に食の供給が間に合わなかった頃は、移動スーパーが主流。コンビニができたが、地域の商店街も減少し、逆にキッチンカーは需要が増加した。昭和の終わりにはオフィス街のランチが流行り、平成になってからは色々な食べ物を専門的に扱うキッチンカーが増えたようだ。

こうして2019年「キッチンカーカフェ珈琲 CoCom」を起業オープンした。名前のCoComは「心夢」という亡き父の書を見つけ、心に響き、家紋と一緒に受け継ぐ想いでお店の名前にしている。ベースになる場所は実家の前、そこからあちこちへ出掛けている。※開店当時



## <こだわりの珈琲・

### 地元食材を使ったフードメニュー>

普通のお店と同じようにエスプレッソマシンなどの機械類を入れ、内装にもこだわっている。イベントなどでは来店者が内部を見て綺麗だと喜んでいただいている。

ハンドドリップ珈琲は①「野生の珈琲」エチオピアの野生種。人間が植えて育てた木ではなく自然に生えた木からとれたフルーティーな酸味の珈琲②「SL スモーキーブレンド」日光に「SL 大樹」が走り始めたころのイメージで焙煎専門のお店に作ってもらい提供。その他エスプレッソ・ラテ・その他の飲み物も。

フードはイタリアの焼きサンド「パニーニ」。国産小麦と天然酵母を使用して、友人にオリジナルのものを作ってもらっている。焼くと表面カリカリで、中はもちもちのパン。中身はあんこや、タイ料理のガパオに地元の日光唐辛子を使ったもの、日光山椒とチキンなど。地元の素材を使っている。

栃木県には郷土料理の「しもつかれ」がある。これは、鮭の頭、大根・人参をすりおろしたもの、大豆などを酒粕で煮て、2月の初午の時に稲荷様にお供えするもの。旬

※「しもつかれパニーニ」



いがきつく、地元でもなかなか食べることが少なくなっている。そこで郷土料理を伝える仲間とコラボして「しもつかれ」の素材を使った新パニーニを作った。酒粕とクリームチーズなどを使い「しもつかれ」が苦手な方でも食べられるように工夫している。栃木県内各地を「しもつかれ行脚 2021」として回った。この春のことで沢山のメディアから取材を受けた。

### <コロナ禍のなかで

### キッチンカーだからこそ出来たこと>

去年のGWの頃は、一時的にキッチンカーも動きは取れなかった。しかし、日光市は栃木県の1/4もある、その中で不安やストレスを皆さんが抱えているだろうと思い、市街地から約1時間以上かかる温泉地など市内4か所を「元気配達」として回った。

※去年のゴールデンウィーク



観光が止まり宿は閉めざるをえないとき、前職から知り合いだったホテル・旅館の女将さんなどにお声掛けをして出店した。宿はもちろん、周辺の方にも喜んでいただいた。当時学校は休校になっていたの、子供たちやママ友も会えない日が続いた。先生方も子供たちに会えるだろうと来るようになり、キッチンカーが再会の場所になった。その後、何台ものキッチンカーが集まるようになっていった。

さらにデイサービスからもお声かけがあり、高齢者施設にも出かけた。珍しいキッチンカーと珍しい食べ物は、高齢者には刺激になった。施設によってはお買い物ゲームのようにして、カウンターまで来て好きなものを選んでという体験をした。意外におばあちゃんたちは珈琲も飲み、パニーニも美味しいと食べてくれた。日常食べているものと違う喜びもあり、家族への新しいお土産話となっていると思う。



幼稚園に行ったときは先生方やお迎えの保護者が対象だった。先生方も何処へも出かけられず我慢して生活していたので、「キッチンカーがきて先生方が喜んでくれたのが一番嬉しかった」と園長からお話をいただいた。

出かけられない人のところに、出かけられるのがキッチンカー、役割を果たせた。

## <観光地の日光・地方都市の日光 そこでの意義と役割は>

今後については、観光地・日光と地方都市・日光と両面から考えられる。

観光地・日光としては、観光客がまた戻ってくる時期になったらキッチンカーは観光客の憩いの場として役立つ。実家のあるベースの場所は、日光駅と世界遺産東照宮などの中間地点になる。ここにキッチンカーは常設しているので、外国人の方など歩いていくお休み場所として使っていただける。観光客と地元の方、観光客同士のふれあいの場所としても考えている。キッチンカーだと、心がオープンになり自然に話ができ



る。外国人同士も交流の場になればと思っている。

キッチンカーに取り付けているタペストリーには「May our coffee be a memory of your journey」（私たちの珈琲が、あなたの旅の思い出になりますように）と書かれている。ここで栃木らしい、日光らしい食の体験をしてもらいたい。

地方都市・日光におけるキッチンカーの役割は・・・高齢者の方にとって路線バスなど交通網は十分便利ではないので、キッチンカーを利用してもらいたい。また、ご自宅でいちから作るのではなく半製品を買ってくる、温めて食べるだけのもの“中食”ニーズにも応えていきたい。少しでも新しいものや味で、生活に豊かさを与えることができれば、それが地方都市でのキッチンカーとしての役割であり、これからと思う。

開業してからもうすぐ2年、色々考えて感じたことは「1日にどれだけ売れたかというよりは、1日にどれだけ交流を図れたか」が自分の糧になっていると思う。



にしている雨よけにもなる。実家のところで営業するときはカーポートがあり、簡単なアウトドアチェアを用意している。(舟越)

●舟越さんを昔から知っているが、こういうことをしたかったんだなあと分かった。自分の興味、持っていたものを集約して自己実現しているやり方であらためて感動している。そういう方向性があるって観光の仕事はとてもあっていたのだけれど、さらにそれを自分で提供する側になったというのが凄い。【東京】



○今頃になって、そういう自分に気が付いてしまった。市役所から観光協会、そして今というかたちで少しずつお客様に近づいているという形だ。(舟越)

●人見知りの私にはできないが、うらやましい、素敵な毎日と思う。こういう形で珈琲や地元の郷土食を、新しいものと組み合わせで作ったというのは、単なる人と人という以上の繋がりが出来ているということだ。食べ物を使ったのはとても良かった。難しいことなど話せないが、食べ物のことなら話せる。繋がるきっかけになる。【東京】

●自分は市役所の観光課で11年、今「DMO」を立ち上げ3年経っている。DMOは、地域の魅力を引き出し観光を活用して地域活性化していく観光まちづくり組織とか、観光地域づくり組織といわれる。観光協会のビ

ジネス版のようなものだ。いつまでこのままの自分で良いのかと考える時もある。実際に観光協会に席を移されて自己実現のキッチンカーをされている話を聞いて、僕にその勇気があるのかというとまだまだ覚悟も足りない。本当に凄いと思った。【和歌山県紀の川市】



●キッチンカーに非常に興味がある。岡山では新規開店のお祝いに素敵なキッチンカーが駆け付けていたのを見たことがある。ベンツの車とお見受けしたが。(岡山県)

○もとはキャンピングカーだった中古の車。以前は四国を回っていたようだ。(舟越)

●カフェの経営は難しいイメージがある、キッチンカーと店舗型ではどちらが継続しやすいのか？【東京】

○店舗はお客様が来なかったらどうやってお客様を呼ぶか？になる。キッチンカーだと機動的に駆けつけることが出来る。大きなイベントでは、かなりの売り上げもあげることが出来る。昔は店舗を持ちたい人がその第一歩としてキッチンカーを始めた。コロナの状況下だからかもしれないが、今は逆に店舗をやめてキッチンカーにしようという流れがある。経営的にも魅力があると思う。(舟越)

●やっけて、一番うれしい瞬間は？【東京】

○ある日、親子のお客様でパニーニをとい

うことだったが、マスタード入りだった。そこで子供用にマスタードを抜き、チーズを倍にしてあげた。あとからそのお母さんがわざわざ戻ってきて「いつも食が細い子供なのに完食してくれました」と、喜んでくれた。こういうエピソードがうれしい。

1日、1エピソードがあればいい、もうそれで満足、力がもらえる。どれだけ売れたかよりそういう満足感の方が大きい。(舟越)

●自分も役場の観光課の仕事をしていた。いつも思っていたことは、観光の仕事というのは外向きの仕事といわれるが、実は完全内向きの仕事で地元の人に地元の事をどう発見して、どう気づいてもらうのか、そして自信を持ってもらうのが観光の仕事であるということだ。特にボランティアガイドを設立して地元の事を地元の人が愛して知ってもらうという事をやっていたので。

主に栃木県の中で名産品や名物品を使いながら回られている、どちらかという栃木県の方とか日光の方が地元をどう愛してもらうとか、どう発信していくとかのお手伝いをしているのを狙いとして頑張っていると感じた。もっと遠いところへ愛車というか愛馬、キッチンカーで行かれると思うがそのような予定があれば教えてもらいたい。【奈良県高取町】



○キッチンカーは営業許可が必要、基本的には保健所ごとに必要になってくる。将来

的には茨城、群馬、埼玉、少しずつ広がっていきたい。地元栃木県を広めるためには出ていくことも良いと思っている。(舟越)

●場所取りは制約あるのか？【東京】

○公共の場所は難しい、イベント会場も自分で探して申し込む。自分で探すのは楽しみでもある。しかし最近はコロナの影響でレストランが閉まった公共施設から呼ばれることもある。(舟越)

●以前は観光行政の立場にあって、いまはキッチンカーのオーナーをやられて、気づいたことは。過去の自らの観光促進のやり方を振り返ってみてどうか。【神奈川県】

○行政では平等性が前面にでてきてしまうので、お客様から食事の場所を聞かれても一店だけすすめることは出来ない、数点提示することで逆にお客様が迷われていたのではないかと思う。そういう意味では自由度がある。(舟越)

●自ら観光を作るという立場になられている、栃木県内でキッチンカーブームがおこり、キッチンカーが起爆剤になり栃木県の観光が底上げになるのではないか。【神奈川県】

●子供には、キッチンカーはお祭りの屋台のイメージがある。コロナで子供食堂が開催できず困っている。シングルマザーの方たちへの支援で物資を提供しているのも、場所を決めて行っている。場所を決めずに移動式で、キッチンカーで子供食堂などがいろんな地域で開催できたらいい。これから色々な用途に繋がっていくように感じる。

【新潟市】

●自分のところは、山を一つ越えなくてはならない不便なところ。美味しいものを作って、もっと知ってもらいたいと思ったと

きに、出向いていける手段としてのキッチンカーは良い。知ってもらって地元に来てもらう、というのができると感じた。キッチンカーと店と両方できればいい、チャレンジしてみたい。【和歌山県海南市】

●昔、2週間に一回魚屋が来て、同じく豆腐屋が来た。同じ感じだ。不便な山の中にキッチンカーが出向いて、パニーニなどを売ってなんだかいいと思う。互産互消、お互いの産地のものに乗せるのも良い。掛川茶を使ってほしい。【静岡県掛川市】

●地元の農業公園のイベントには何種類かのキッチンカーが来ている、普段アクセスできないようなレストランも来てくれる。珍しい味で、とても元気が出るように感じている【三重県津市】

●市の職員からの転職の勇気は凄いと思う。コーヒーも美味しそう、車も素敵。コロナが収束したらぜひ日光へ伺いたい。

【兵庫県宝塚市】



●舟越さんのお人柄、魅力、ハート、ご経験を含めて凝縮されている。食を通して皆様が集まっている、キッチンカーが来るだけで環境全部が自分のレストランという感じ。限りなくコミュニケーションが出来るように感じた。【東京】

●たいへん勇気のある話、元気をいただいた。【兵庫県】

●行政の立場から 180°C違う人生の選択、

リスクをどう自分で消化されたのか、乗り越えたのか？【東京】

○仕事は嫌ではなかった、もっと違うものがあるように感じた。それに偶然が重なって、何かが味方してくれてここで変わっていい、という事なのかと思い、おもい切った。不安が無かったわけではない。スポーツでいうと日光の人が日光で仕事をするのはホーム、日光から出たらアウェイになる。キッチンカーはアウェイの場所もその場所のお客様と話をすることによりホームになってくる。何処にいても自分のホームになるところがとても楽しい。(舟越)



●“舟越イズム”を再認識した。非常に新しい試みの、観光に対するひとつの市民サイドからのアプローチだと思う。“舟越イズム”をもっと、皆さんに知ってもらい頑張ってもらいたい。【東京】

.....  
最後には「舟越イズム」という言葉まで飛び出して・・・  
地域おこし系のキッチンカー、観光戦略系のキッチンカー、子供や女性に向けてのキッチンカー、色々なアイデアが沢山掘り出された「さろん」となりました。

(まとめ作業：事務局・小松崎いずみ、野口智子)